

氏名： 永原 恵三 (NAGAHARA Keizo)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 博士 (文学) (1999 大阪大学)
職名： 教授
専門分野： 音楽学、特に音楽存在論と、声を用いた音楽の演奏論
E-mail： nagahara.keizo@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

音楽美学／キリスト教音楽／合唱／柴田南雄／観光
Aesthetics of music / Christian music / chorus / SHIBATA Minao / tourism

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・独唱：2007年8月「永井和子先生の古希を祝う会」、Schubert, "Liebesbotschaft", "WandersNachtlied", 兵庫県立芸術文化センター小ホール
- ・合唱指揮：2007年12月「コーロ・パンジェリングア演奏会」T.L.Victoria, "O magnum mysterium", G.Palestrina, "Sicut cervus", etc. 木下牧子『地平線のかなたへ』他、新宿区四ツ谷文化センター。

◆研究内容 / Research Pursuits

研究内容は理論面と実践面の両方にわたっている。理論面では、キリスト教音楽のとくにカトリックの音楽について、第二ヴァチカン公会議以降の典礼聖歌を中心に日本とドイツの状況を考察している。さらに、世界音楽化している現代の音楽状況において、音楽美学はどのように可能なのか、という問題に取りかかっている。従来の音楽美学は西洋音楽を中心に構築されてきたが、そうした統一的な美学が崩壊した現在、それでも音楽美学は成立するのかどうか、もしも成立するとしてどのようなになるのか、を検討し始めている。他方、実践面では、合唱における発声法の問題について、実際の合唱団での指導実践に基づいて、従来の日本における合唱の発声法がもつ問題点を取り出すとともに、音声生理学的に正しいと思われる方法での発声法を見だし、その練習法、指導法を実践して、その成果が現われ始めているところである。また、ルネサンス音楽の男声合唱によるカウンターテナーを使用した演奏も実践し、徐々に成果が出ている。

My subject of study consists of theoretical and practical fields. In the former field I study Christian music, especially Catholic liturgical music after the second Vatican Council in Germany and Japan and the possibility of aesthetics of music, in the condition of globalization of music and configuration of world music. In the latter field I study the voice-training of chorus members. There are a lot of problems in the instruction method of chorus in Japan. I have picked up these problems and search for the improvement of them. Still more I conduct male chorus which has a repertory of Renaissance music and contains counter-tenor members and execute a period style performance.

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部の1年生から大学院博士課程まで、それぞれの水準に合わせて、音楽学の諸問題を講義、演習している。西洋音楽史の16世紀、17世紀頃までの事例をもとにして、音楽についての学問的な思考を教え、その上で、民族音楽学も含めた世界音楽の視点で、音楽学の研究方法や内容を教えている。つねに音楽学の新しい研究分野や研究方法を伝えるように務めている。

From the basic grade to the master and doctor course grade I teach various problems of musicology on the level of each student by lectures and seminars. For example I teach a history of western music on the material of the music from the period of Gregorian chant to 16 and 17 century. On such basis I teach musicology including ethnomusicology in new perspective and methodology.

◆研究計画

1. 柴田南雄の合唱作品をもとにした合唱の場と生成についての著書の出版。
2. 観光研究の古典となっている、ディーン・マッカーネルの *The Tourist* の翻訳をもとにした観光研究の研究書の出版。(安福恵美子氏との共同研究)
3. カトリック音楽の研究と典礼聖歌の合唱研究とによって、今後のカトリック教会での聖歌隊やオルガニストなどへの指導実践をするとともに、典礼音楽の演奏についての規範を提示する。典礼学者との共同研究が可能で、すでに宮越俊光氏とワークショップを開催。
4. 合唱団の指導を継続し、合唱における発声法と演奏法、指導法を開発する。今年度はすでに野田市合唱連盟から指導の要請あり。
5. ルネサンスの声楽をカウンターテナーを含む男声合唱は、日本では希少であり、当時の演奏スタイルを踏襲した現代的な演奏の可能性を目指す。

◆メッセージ

日本の音楽教育のなかで音楽は鑑賞する対象や歌ったり楽器を演奏したりする曲、として教えられてきています。社会にあっても、音楽は娯楽の対象であり、コンサートやCDなどで聴くものと見なされています。確かにそれは事実であり、音楽の一つの側面を示しています。しかし、音楽が学問の対象であること、つまり音楽学という学問があることは、日本の一般社会において知られていませんし、理解されてもいません。しかし、欧米の大学では音楽学は総合大学であれば当然のごとくにコースが設置され、教育研究が行なわれています。もちろん、日本や中国などの伝統文化の深い地域に音楽の研究の伝統はなかったのかと言えば、そうではありません。音楽は世界の各地域の人々の生活に根づいています。世界音楽の時代に、アジアの高い知的水準をもって、音楽を実践するとともに学問として考えることを、私たちは提案しています。